

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 9 日現在

機関番号：32519

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370363

研究課題名(和文) 中世後代写本「派生」本文諸異読の分析に基づくプラトン著作本文伝承の総合的研究

研究課題名(英文) Studies on the Textual Transmission of Plato's Works on the Basis of an Analysis of Variants in Later So-Called Textually Derivative Medieval Manuscripts

研究代表者

瀧 章次 (TAKI, Akitsugu)

城西国際大学・環境社会学部・准教授

研究者番号：60458693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：中世写字生はただ一つの手本をできる限り忠実に写そうとした。その限り、原著本文の異読は意図せざる不注意によって生じたものである。それゆえに、誤写に着目しその系譜により、写本の系統図上、先代にして独立なる写本を特定し、それら祖本における本文異読を評価し正文を確定する。かかる本文校訂法について、西欧中世写字文化においてこの前提は理想に過ぎ、意図的な異読混入や本文変更の実態が明らかになってきた。本研究はこの見地に立ってプラトン著作について、「派生本文」、「後代」写本として校合されてこなかった写本を校合し、プラトン著作の写本系譜において、祖本にないよりよい読みがそれらに存在することを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Criticising the previous methodological assumption that a scribe always copies a single exemplar faithfully, and its implication that it is a task of textual criticism to identify ascendant texts in the extant manuscripts' lineage constructed in common errors and exclude inferior readings there, I follow a more realistic working hypothesis that medieval scribes in Europe intentionally both introduce a variant reading from another source and alter the exemplar's text. On this hypothesis, specifically, choosing some of Plato's works as samples, I have collated what was regarded as both later and descendant, and therefore inferior, manuscripts. As a result, I have shown that there is a better reading in those later descendant manuscripts than in earlier ascendant manuscripts.

研究分野：西洋古典学

キーワード：正文批判 プラトン 中世写本 異読 写字生 ギリシア語 Pasquali Lachmann

1. 研究開始当初の背景

プラトン著作の印刷本の歴史に関しては、他の古典同様、少数の写本から最初の印刷本が作られ、それが通用本文として影響を持ち、その後、別の写本の異読情報を付加する形で改版が進んだ。こうした事情は、16世紀当時の写本利用条件から当然であった。19世紀になって、I. Bekker がヨーロッパの写本本文を広く校合し、異読を、その校訂本文証言欄に報告した。G. Stallbaum は、Bekker 報告に欠けるフィレンツェ写本ほかを校合に加え、その異読を、校訂本文証言欄に報告した。しかし、Bekker の報告は実際に再検証すると不正確なことも多い。また、Stallbaum 報告は、間接的なもので、挙示法にも統一性を欠く。19世紀後半の M. Schanz も、20世紀初頭の J. Burnet も、本文校訂に当って、多くを他者の報告を基にしていて、多くの誤りが検証されている。最新版本でもしばしば誤った報告が残っている。21世紀に入っても、Oxford Classical Text はじめ、個別作品ごとに進む、本文伝承全体の精査は、当該研究分野における同時代の要請であった。

このような時代の要請を受けて、科学研究費補助金(基盤研究(C)一般)「古代末期から9世紀のプラトン著作伝承の解明に基づく『アルキピアデス』の校訂」(課題番号: 22520323)(2010-2013年度)においては、プラトン著作集中の擬プラトン著作『アルキピアデスI』について、主要写本6写本の伝承ならびに間接伝承における Stobaeus、Proclus、Olympiodorus における伝承について、再校合し、先行する近代校訂者の異読情報の誤りを修正した(Taki, A. (2014), 'Some Modern Editors' Discrepancies from the Manuscripts in Their apparatus critici of the Platonic First Alcibiades', 『城西国際大学大学院紀要』, 17, 25-41)。

しかしながら、なお方法論上の問題から主要写本のみならず本文伝承全体の精査が要請された。事情は下記の通りである。

すなわち、古典文献学本文校訂の方法論的問題として、写本本文における異読混入(contamination)の汎通性を争点として、stemma(写本の系図)を描けるか否かが問われ、前者 Maas と後者 Pasquali との間に方法論上の対立があった(Maas, P. 1927, 1957³. *Tektkritik* (Leipzig); Pasquali, G. 1962². *Storia della tradizione e critica del testo* (Firenze); cf. West, M.L. 1973. *Textual Criticism and Editorial Technique* (Stuttgart))。この対立は、ルネッサンス期に、断片的には、さらに古代教父証言に、辿りうる問題であり、Maas 理論の近代的創立者とされる Lachmann 内部においてもすでに相克がああった(Timpanaro, S. 2005. *The Genesis of Lachmann's Method.*)。また、今日では、Maas の自覚的な理論的純化に対して、Pasquali が理論適用範囲制限事例を提出

したことに過ぎない見かけの問題と理解できる(Reeve, M.D. 1989. '*Eliminatio codicum descriptorum*'). この経緯から、Maas 理論を作業仮設とし、作者、作品ごとの伝承は勿論、写本ごとの写字生のふるまい、写し誤りと区別される意図的編集、lacuna、落丁等物理的特性、後代写本中の諸異読、これらを精査することが方法論上要請された。

プラトン著作本文校訂について言えば、Maas 理論を阻害する諸事例はすでに Pasquali によって指摘されていたが、その後、具体的に、本文校訂上の要請として、作品ごとに、直接、間接証言に現れるすべての異読を蒐集し系統づけることが求められ、OCT 新版はじめ、個々の作品の校訂の基礎作業として進められてきていた(e.g. Carlini, A. 1972. *Studi sulla tradizione antica e medievale del Fedone*; Boter, G. 1989. *The Textual Tradition of Plato's Republic* ほか D.J. Murphy の諸論; 間接伝承異読編集事情については、パピルス: Johnson, W.A. 2009. 'The Ancient Book'; 注釈、教説集: Whittaker, J. 1989. 'The Value of Indirect Tradition ...')。写本本文の系統については、Schanz 以降の研究の蓄積によって、趨勢が明らかになる一方、後代写本派生本文に付加された異読は、本文再構成上不可欠の批判資料となっていた。以上より、方法論として、写本の後代性は、その(本文はもちろん)異読の、後代性も派生性も含意しないことは明らかとなった。抛って、Bekker 版や Stallbaum 版の本文証言欄以降十分顧みられることのない、後代のフィレンツェ、ヴェネツィアの写本について、作品ごとに、本文全般の派生性は高くとも(contamination は低くとも)、種々の異読を調査し系統づける作業が、改めて重要な意義を持つに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、プラトン著作本文伝承の全体像を解明することであった。具体的には、写本上の派生本文と主要本文とを区別し、単に諸主要本文を校合することに留まらず、なお、(1) 主要本文並びに派生本文の行上方(supra verba)、字間(in textu)、欄外(in margine vel extra lineam)における、付加、混入、修正、削除による異読、(2) 引用、翻訳、初期版本等間接伝承における(特に、哲学著作群伝承に共に与る注釈、教本等における)諸異読、以上二類を蒐集、分析、評価することをも施した上で、初期本文を総合的に再構成することであった。特に、本研究では、中世後期、後代写本「派生」本文として、その異読が顧みられることが少なく、また19世紀版本では、報告が正確性、統一性を欠く、中世後代フィレンツェ、ヴェネツィア写本の諸異読に焦点を当て作業を進めることであ

った。

3. 研究の方法

先行個人研究で PC 上で複数写本を同時に分析、記録する作業を可能にする環境を開発していた。本研究では、その環境下で、プラトン著作後代写本「派生」本文に付加、混入、修正、削除された異読を記録する作業を第一とした。さらに、その記録を、分析し、直接・間接伝承の読みと比較し、個別箇所本文伝承の全体像を記述することを目指した。その場合、写本ごとに、加筆者の筆跡を同定し、加筆者ごとに加筆箇所を蒐集することを第一とし、さらに、個々について、主要本文や間接伝承の読みと比較し、加筆前後の異読の来歴を明らかにすることを目指した。とりわけ、諸種の異読の中でも、物理的に目に留まる付加、削除、修正を優先した。経験上、写本研究では、系統的整理に、労力を削がれ、判読や分析という主要な作業の時間を失いやすいので、先行研究で用いた電子ファイルによる資料整理法を活かし、整理作業と並行して、作品別異読研究を、また更に、先行個人研究の発展研究をも、進めていき、逐次、先行研究を更新する文献学的成果を提出することを行った。

本研究では、特に下記の、ヴェネツィア、フィレンツェの後代写本を購入し、または、公開されているものをダウンロードし、調査した。

ヴェネツィア写本は、Venet. gr. 184, s. XV (E), Venet. gr. 186, s. XV, Venet. gr. 187, s. XV (N), Venet. gr. 188, s. XIV, Venet. gr. 189, s. XIV (S), Venet. gr. 590, s. XIV である。

フィレンツェ写本は、Stallbaum の sigla を丸括弧内に付して示すと、Laur. Plut. 28.29, s. XV (z), 59.1, s. XIV (a), 80.7, s. XV (α), 80.19, s. XIV (β), 85.6, s. XIII (b), 85.7, CE 1420 (x), 85.9, s. XV (c), 85.12, s. XIV (d), 85.14, s. XV (n), 87.17, s. XIV (e), 89.78, s. XV (f), Conv. Soppr. 42, s. XII (γ), 54, XIV (i), 78, s. XIV (g), 103, CE 1358 (h), 180, s. XV (o) である。

4. 研究成果

下記図書所収論文では、日本におけるプラトン研究の方法論を回顧し、原資料たる写本校合に基づく研究の欠を示唆した。

雑誌論文(1)(4)(6)では、先行自己研究では不十分であった『アルキピアデス I』の後代写本並びに、15 世紀フィチーノのラテン語で用いられた諸写本、16 世紀印刷本最初期 3 版本における諸異読を記録し系統を明らかにした。特に、Venetus gr. 186 には、主要系統に尽きない異読が記録されていること、また、フィチーノのラテン語訳から、主要写本にないよりよい読みで現存写本にない読みが利用可能な写本の内にあったと推測さ

れることを明らかにした。

また雑誌論文(2)(3)(5)では、古代 Thrasylus プラトン著作編集方法である 4 作品ごとの区分けに基づく、失われた 2 巻全集の下巻にあたる第 8 区分以降の作品について、9 世紀主要二写本、Parisinus gr. 1807 (A)、Vaticanus gr. 1 (0) に対する後代写本の本文の異読を収集、記録し、近代校訂本文証言欄の報告の誤りを訂正することを、『ミノース』編全編、『クリティアス』編一部について行ったほか、偽作二編『正義について』、『徳について』の本文伝承系統について一部を仮説として提出した。

なお 2018 年 3 月に公刊することを予定しているものとして、『アルキピアデス I』のヴェネツィア、フィレンツェ以外の後代写本の系統、『定義集』ヴェネツィア、フィレンツェ後代写本の諸異読記録について、本報告書作成時点で基礎作業を終えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

(1) Taki, Akitsugu (2017), 'Hypotheses on the Textual Transmission of the Platonic *First Alcibiades* in Ficino's Translation and Four 16th Century Editions of Plato's Works', 『城西国際大学大学院紀要』20 (2017) 47-68.

(2) Taki, Akitsugu (2017), 'Variants in Some Direct and Indirect Transmissions of Plato's *Critias* 106a1-112e10', 『城西国際大学大学院紀要』20 (2017) 79-108.

(3) Taki, Akitsugu (2016), 'Variants in Some Direct and Indirect Transmissions of the Pseudo-Platonic *Minos*', 『城西国際大学大学院紀要』19 (2016) 1-46.

(4) Taki, Akitsugu (2016), 'Hypotheses on the Textual Interrelations among Some Later Venetian Manuscripts in the Transmission of the Platonic *First Alcibiades*', 『城西国際大学大学院紀要』19 (2016) 47-64.

(5) Taki, Akitsugu (2015), 'Hypotheses on the Textual Interrelations of Some Medieval Manuscripts in the Transmission of the Pseudo-Platonic *De iusto* and *De virtute*', 『城西国際大学大学院紀要』18 (2015) 13-22.

(6) Taki, Akitsugu (2015), 'Hypotheses on the Textual Interrelations of Florentine and Coislian Manuscripts in the Transmission of the Platonic *First Alcibiades*', 『城西国際大学大学院紀要』18 (2015) 1-12.

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1 件)

瀧章次(2015)「プラトンをめぐる接近法
「プラトン解釈の問題点」を軸として」土橋
茂樹, 納富 信留, 栗原 裕次, 金澤 修編
『内在と超越の關 加藤信朗米寿記念哲学
論文集』知泉書館、25-37

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀧 章次 (TAKI, Akitsugu)
城西国際大学・環境社会学部・准教授
研究者番号：60458693

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()